

第5学年 道徳科学習指導案

令和2年9月16日（水）第5校時
稲城市立長峰小学校
第5学年2組 39名
授業者 北田 瑛和

校内研究 各教科共通研究主題

協働的な学習活動を通して自己の考えを深められる児童の育成
—授業改善の手立ての汎用—

- 1 主題名 自由だからこそ A [善悪の判断, 自律, 自由と責任]
- 2 教材名 「うばわれた自由」 (文部科学省「私たちの道徳・高学年」)

3 主題設定の理由 (授業者の指導観)

(1) ねらいとする道徳的価値について

「特別の教科 道徳」における内容

A 自分自身に関すること

1 [善悪の判断, 自律, 自由と責任]

[第5学年及び第6学年]

自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。

私たちは自由が保障され、自由に行動することができる反面、自分で自律的に判断し、行動したことには自己責任が伴う。時折、私たちは自由の捉え違いをしてしまい、相手や周りのことを考えずに自分勝手な振る舞いをしてしまうこともある。また、他者を傷つけてしまうこともある。私たちが社会の中で生きる上では、自由の意味を捉え違えることなく、自律的に判断する力が備わっている必要がある。

加えて、自由に伴う自己責任の大きさやその後の影響についても、自分の意思で考え判断し行動することが大切である。それは、後の影響を考えずに行動することで、他者との関わり合いに歪が生まれてしまうことが多々あるからである。各々が自分勝手な行動をとると、社会秩序が成り立たなくなってしまう。私たちが健全な社会を作り、維持していくためには、自由の意味を自律的かつ適切に判断し、責任のある行動をとることが求められる。

そこで、自由の在り方や、自由だからこそできること、そのよさを考えることを通して、自律的に判断して責任のある行動をとろうとする心を育てていきたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、本年度はコロナの影響で、全校児童の前で高学年としての立ち居振る舞いを求められる場面をほぼ経験せずに2学期に入った。本来であれば、運動会をはじめとした学校行事、委員会活動やクラブ活動などにおいて、組織の中で自律的に判断し、率先して行動する場面があったと想定できる。

学級では、決まりを守って生活しようとしている姿が見られる。逆に、自由のとらえ違いをして、相手や周りのことを考えずに、自分勝手な立ち居振る舞いをしてしまうことも見られる。

そこで本時において、自由の在り方を考えることを通して、自由と自分勝手との違いや、自由だからこそできること、そのよさを考えさせたい。その営みの中で、自律的に判断して責任のある行動を取ろうとする心を育てることができないのではないかと考えた。

本価値についての指導は、各教科等の授業の中で価値に対する指導の機会は少ない。以上のような児童の実態から、本時では道徳教育として、「補うこと」を意図して授業を行う。

(3) 教材について

本教材は、「自由」に対してのジェラルルの心の変容を描いたものである。自分の思いのままに行動することが自由であるとするジェラルル王子に対して、ガリューはその行動を諭すのだが、聞き入れようとしない。やがて、ジェラルルは自分勝手な立ち居振る舞いが仇となり、囚われの身となってしまう。そして、牢屋でガリューと再会したとき、真の自由の大切さを知ることとなる。

本教材は、児童がジェラルルの心の変化を自己に投影して考えることのできる教材であり、そのことを通して、自由の在り方の意味をより深く理解して、自己を見つめることのできる教材であると考えている。

そこで本時では、ジェラルルの心の変化に焦点を当てながら、児童が自己をジェラルルに投影し、自由の在り方についての考えを深めることによって、自律的に判断し、責任ある行動をとることへの自覚を深めていきたい。

教材分析表

	行番号	場面の概要	ジェラルルの内面	関連価値	発問
①	表面 L1～5	狩りをして いるとき	・楽しい。 ・いい気分だ。	A 善悪の判断 A 節度, 節制	
②	L6～11	ガリューが 現れたとき	・何者だ。 ・邪魔をするな。	A 善悪の判断	
③	L12～15	ガリューが注 意するとき	<ガリューの内面> ・なぜうったのだ。	A 善悪の判断 C 規則の尊重	

			<ul style="list-style-type: none"> ・ここで狩りをしてはいけない。 ・決まりを破っているのは見過ごせない。 	<p>C 公正, 公平, 社会正義</p> <p>C 勤労, 公共の精神</p>	
④	L 16～19	ガリユーが捕えようとするとき	<ul style="list-style-type: none"> ・うるさいやつだ ・気分がよいところを邪魔しやがって。 	<p>A 善悪の判断</p> <p>A 節度, 節制</p> <p>C 規則の尊重</p>	
⑤	L 20～34	ガリユーが論ずるとき	<ul style="list-style-type: none"> ・私は王子だぞ。 ・誰も王子を捕まえられないだろう。 ・逆らうと大変なことになるぞ。 <p><ガリユーの内面></p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰であろうときまりを破る人は許せない。 ・国のきまりはみんなのためにある。 ・殺されるかもしれないが訴えるしかない。 	<p>A 善悪の判断</p> <p>A 節度, 節制</p> <p>C 規則の尊重</p> <p>C 公正, 公平, 社会正義</p>	① ジェラル王子がわがままな行動をとってしまうのは、どのような気持ちからでしょう。
⑥	L 35 裏面 L 1～12	2人の「自由」がぶつかるとき	<ul style="list-style-type: none"> ・みんな自由を望んでいる。 ・決まりなどいらない。 ・窮屈な世の中は嫌だ。 ・誰にも意見をさせないぞ。 <p><ガリユーの内面></p> <ul style="list-style-type: none"> ・王子の言う自由は自分勝手なもので、他の人に迷惑がかかる。 ・王子には手本となるよう行動してほしい。 	<p>A 善悪の判断</p> <p>A 節度, 節制</p>	
⑦	L 13～14	ガリユーを牢屋に入れようとするとき	<ul style="list-style-type: none"> ・王子に意見をしようとは生意気だ。 ・私には向かうとは許せない。 	<p>A 節度, 節制</p>	
⑧	L 15～17	ジェラルが王になったとき	<ul style="list-style-type: none"> ・王になったから、自分の思い通りにできる。 ・もっと好きなことをしよう。 	<p>A 善悪の判断</p> <p>A 節度, 節制</p>	

⑨	L18～20	国の中が乱れてきたとき	<ul style="list-style-type: none"> ・国の中が乱れてきて困った。 ・どうして乱れてきたのだろう。 ・なぜ裏切られるのだろう。 ・みんな勝手気ままに振る舞うようになってしまった。 	A 善悪の判断 A 節度，節制 C 国や郷土を愛する態度	
⑩	L21～32	ジェラル王子とガリユの再会するとき	<ul style="list-style-type: none"> ・こんなところで会うとは。 ・ガリユの言葉を素直に受け止めていけば。 ・自分のせいで国が乱れることになり責任を感じる。 ・とても悲しい。 	A 善悪の判断 C 規則の尊重	
⑪	L33～36	ガリユが牢屋から出される時	<ガリユの内面> <ul style="list-style-type: none"> ・王子はこれからもきっと変わるはず。 ・本当の自由を大切にしてほしい。 	A 正直，誠実 B 親切，思いやり B 寛容 C 公正，公平，社会正義	

⑫	L 37	ジェラルールが牢屋で一人になるとき	<ul style="list-style-type: none"> ・こんなことになってしまうとは。 ・言うことを聞いておけばよかった。 ・ルールを守るべきだった。 ・周りの人に迷惑をかけてはいけない。 ・自分勝手や、わがままはよくない。みんなに迷惑をかけてしまう。信頼を失う。 ・「自由」は何をしても許されるという意味ではない。 ・周りのことを考えて行動することが正しい自由だ。 ・王だからこそ、きちんとしなければ。 ・自らが模範にならないと。 ・自由には責任が伴う。 ・これからは、よいことか悪いことかを考えて生活していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> A 善悪の判断 A 節度, 節制 A 正直, 誠実 B 相互理解 C 規則の尊重 C 公正, 公平, 社会正義 C 国や郷土を愛する態度 	<p>② 牢屋で一人になったとき、ジェラルールは、どのようなことを考えたでしょう。</p> <p>(中心発問)</p>
---	------	-------------------	--	--	---

4 研究主題と関連した本時の工夫

(1) 教材提示の工夫

読み聞かせでは、効果的な間を取って読み聞かせることによって、児童がより教材に浸ることができるようにする。台詞のところは臨場感をもって読んだり、文の語尾は声を上げ口調ではなく下げ口調にしたりしながら、教師による「語り聴かせ」によって、児童がジェラルールを自分事として考えられるようにする。

さらに、BGMを活用して、児童がより教材の物語の世界に浸り、登場人物に自我関与することができるようにする。

読み聞かせた後は余韻を保つことにより、児童の教材についての思いを深めさせ、児童が教材に自己を投影して考えられるようにしたい。

このように、児童が教材に浸ることによって、登場人物に自我関与して一人一人が考えていくことができる。教材は児童の心を映し出す鏡である。そして、児童の心の内面を言葉にして表出することによって、協働的な話し合い活動が生まれていくことになることから、教材提示に力を入れたい。

(2) 発問の工夫

本時のねらいに沿って心情を育てるために、中心発問については、牢屋に一人取り残されたジェラルルを取り上げて自分事として考えさせる。

ねらいとする中心発問で児童が自己と対話しながら深く考えることができるようにするために、基本発問にて、自分勝手に立ち居振舞うジェラルル王子の心情を取り上げて考えさせる。

児童が発問に対してじっくりと自己内対話しながら自分事として考え、他者理解を伴って、さらに自己内対話を繰り返しながら深く考えていくことができるようにしていきたい。そこで、教材分析表を基に発問を精選し、中心発問と基本発問を1つの発問構成とした。発問を精選し、児童の話し合う時間をしっかりと取ることにより、自分の考えを深められると考えた。

物語のよさを味わいながら、他者理解を伴うことによって、多面的、多角的に自由の在り方についての考えを深めたり広げたりしたい。

発問の後には、すぐに答えさせずに、じっくりと考える時間をとってから意図的指名を行う。また、児童の発言に対し、教師は児童の発言を受け止めながら、心から聴いていきたい。必要な場合には、問い返すことによって、児童の考えを明確に表現させたり深めたりさせていきたい。

(3) 展開後段でのワークシートの使用

授業で学んだことや考えたことをもとに、自分自身の生活を振り返って見つめさせたい。自己内対話をしながらワークシートに考えをまとめることによって、考えを整理したり深めたりさせる。考えが思い浮かばない児童には、板書を見ながら助言する。

自己を見つめながら、道徳的価値に対してじっくりと考えさせる時間を取るために、書く活動は展開後段の自分の生活を振り返る場面のみとする。

ワークシートに記述したことを数名の児童に述べてもらい、児童が自分の感じ方と比べて考えることによって、他者理解や自己理解を深めさせたい。その際には、児童のプライバシーも考慮しながら、児童の了承を得ておいてから意図的指名する。道徳的価値を多面的・多角的に取り上げられるようにしたい。

5 本時の指導

(1) ねらい

牢屋で一人になったときのジェラルルの自由に対する気持ちの変化を考えることを通して、自由の在り方を考え、自律的に判断して責任ある行動をとろうとする心情を育てる。

(2) 学習指導過程

	○主な発問 ・児童の心の動き	○指導上の留意点 ☆評価
導 入	<p>1 自由について考える。</p> <p>○ 先生から「5時間目は自由に過ごしていいよ。」とメッセージがあったら、どのようなことをしたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外でドッジボールをする。 ・教室で遊ぶ。 ・おしゃべりをする。 ・寝る。 ・静かに遊んで、隣のクラスに迷惑が掛からないようにする。 ・読書をする。 ・授業の時間なので勉強をする。 	<p>○メッセージを記したホワイトボードを掲示しておいてから、発問する。</p> <p>○「遊ぶ」などという身勝手な考えにも、うなずきをもって肯定的に受け止める。</p> <p>○導入後、主題名を板書して教材名を貼る。</p>
展 開 (前段)	<p>2 教材「うばわれた自由」を読んで話し合う。</p> <p>① ジェラル王子がわがままな行動をとってしまうのは、どのような気持ちからでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は王子だぞ。 ・王子だから何をしてもよい。 ・誰にも文句は言わせない。 ・楽しければそれでよい。 ・好きなことをして何が悪い。 ・まわりのことはどうでもいい。 ・一人くらいよいだろう。 ・このくらい、いいじゃないか。 	<p>○場面絵①を見せて登場人物を紹介し、ジェラル王子の気持ちを考えていくことを伝える。</p> <p>○BGMを用いて臨場感を醸し出すようにし、読み聞かせ後は余韻を保つ。【工夫①】</p> <p>○発問カードを貼ってから発問する。</p> <p>○発問後、考える時間を十分にとる。</p> <p>○児童の発言を座席表にメモしていき、全部集約してから分類整理して板書する。</p> <p>○中心発問と対比して考えることができるように、横書きに板書する。</p>

<p>展開 (前段)</p>	<p>② 牢屋で一人になったとき、ジェラルルは、どのようなことを考えたでしょう。 (中心発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんなことになってしまうとは。 ・言うことを聞いておけばよかった。 ・自分がしっかりしていれば。 ・好き勝手にして後悔した。 ・自分勝手はよくない。 ・ルールを守ってこそ自由。 ・自由とは迷惑をかけないことが前提。 ・周りのことを考えて行動することが本当の自由である。 ・自由だからといって、何をしても許されるという意味ではない。 ・王だからこそ、お手本にならないと。 ・自由には責任が伴う。 	<p>○場面絵②と発問カードを貼ってから発問する。</p> <p>○児童の発言を、基本発問の板書に対応させながら板書していくことによって、ジェラルルの心の変容を道徳的価値に結び付けていく。【工夫②】</p> <p>○主題に迫る反応がでないときは補助発問をする。</p> <p>「ジェラルルは、自由について、どのように考えたのだろう。」</p> <p>☆ジェラルルの自由に対する考えを類推することを通して、自由についての道徳的価値の自覚を深めている学習状況を把握する。</p> <p>(発言：板書・座席表)</p>
<p>展開 (後段)</p>	<p>3 これまでの自分の生活を振り返る。</p> <p>○ このお話を通して、自由について学んだことや考えたことはどのようなことですか。自分自身の生活を振り返ってワークシートに書いてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と遊ぶとき、好き勝手にしていた。 ・周りの人に迷惑をかけていた。 ・授業中に好き勝手に発言していた。 ・授業中に笑いを取ろうとふざけてしまっていた。 ・これからは、よいことか悪いことかを考えて生活していきたい。 ・高学年としてお手本になっていきたい。 	<p>○展開前段を振り返ってから課題を示す。</p> <p>○考えが思い浮かばない児童には、板書を見ながら助言する。</p> <p>○発表してもよいと了承を得られた児童を指名する。その際、多様な考えを取り上げるようにする。</p> <p>【工夫③】</p> <p>☆自分との関わりの中で、自由の在り方について振り返り、考えを深めていっている学習状況を把握する。</p> <p>(ワークシート：記述)</p>

終末	<p>4 教師の説話を聞く。</p> <p>○ 大学生になって、厳しい親元を離れて一人暮らしになり、自分の好きなように自由に暮らした。その結果、成績は下がり、進級が難しくなってしまった。何も言われなからこそ、自らよく考えて生活をしていかねばならないと考えた。</p>	<p>○ 身近な人の体験を聞くことによって、本時の道徳的価値を深め、明日につなげようとする心を育ませる。</p> <p>○ 余韻を残して終える。</p>
----	---	--

(3) 板書計画

